

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010040

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	16 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町内小工事事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	町道舗装等の補修		#N/A	
事業目標	適切な補修	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	○町道の舗装、排水、法面等の応急的な補修工事	舗装補修外 1式	舗装補修外 1式	舗装補修外 1式	舗装補修外 1式	舗装補修外 1式
	事業費(千円)	34,100	5,700	6,500	6,900	7,500
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	34,100	5,700	6,500	6,900	7,500	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	34,736	5,689	6,064	6,899	8,826
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	34,736	5,689	6,064	6,899	8,826	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 舗装補修外1式	(実施内容等) 舗装補修外1式	(実施内容等) 舗装補修外1式	(実施内容等) 舗装補修外1式
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	適切な補修	適切な補修	適切な補修	適切な補修
		年度達成率	100%	93%	100%	118%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	17%	34%	55%	81%
	備考欄					

事業名	町内小工事事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	町道舗装等の補修件数	
【抱える課題やニーズは】	道路未補修による交通障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町道の舗装、排水等の応急補修による現況復元	① 町道舗装等の補修件数/町道舗装等の補修件数	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町道の通行の安全確保の維持		目標値	5件
			実績値	5件
			達成度	100.0%
		②	目標年度	平成29年度
			目標値	〇〇
			実績値	〇〇
			達成度	#DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による工事の実施	見積りにより民間業者に工事を発注し、補修を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町道の舗装、排水等の応急的な工事により、通行の安全を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		当該工事を実施したことにより、通行の安全確保が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		応急的な対応を行うための予算を措置し、早期に対応できたことは、被害拡大の防止が図られ、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		町道の舗装、排水等の応急的な工事により、通行の安全を確保できたので、不特定多数の道路利用者に対して公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
応急的な補修工事ができたことは、町道の安全な通行上、今後も必要な事業であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
町道の安全な通行のために、応急的な補修工事に対応することは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止